

## 歴代会長

初代	田中 四郎	昭和30年4月～昭和61年3月
二代	伊藤 徳治	昭和61年4月～平成7年3月
三代	松本 貞夫	平成7年4月～平成9年3月
四代	金子 忠男	平成9年4月～平成19年3月
五代	矢崎 文彦	平成19年4月～平成25年3月
六代	伊藤 英男	平成25年4月～現在

## まちの由来

昭和7年当時「東京府豊多摩群野方町大字上沼袋」と呼ばれていた地域を中野区沼袋南1・2・3丁目と命名するが、町の有志が中心となり反対運動を起し2年間に及んだ結果、昭和9年に中野区沼袋南2丁目と3丁目とが「大和町」の名称に決まりました。

この「大和町」という町名は地域に古くから住んでいる人と新たに住み始めた人が「大きな和」を持って新しい町を創ろうとの気持ちから名付けたと言われています。

大和町の範囲は、東は大新横丁、西は蓮華寺の西筋、南は大場通り（早稲田通り）で一部南側にも張り出し、北は大場川（妙正寺川）の北の道に囲まれた地域で誕生しました。

## 歴史

戦後10年後の昭和30年に消防署通りから西側（現在の大和町3・4丁目と若宮2丁目の一部）の地域を町会の名称ではなく「大和町西部自治会」の名称で発足しました。そんな大和町3丁目に当たる地域には、世界的に有名な版画家である棟方志功が昭和4年から昭和18年まで居住しており多くの作品を作り上げていました。

そのような大和町西部自治会では初代会長以来この西部自治会内の安全・安心で住みよい町づくりを目標に代々の会長に引き継がれて来ています。

## 組織

大和町西部自治会では住民の安全・安心そして親睦を図るために、総務部を始め社会福祉部、文化環境部、青少年部、防犯・防火・交通部、特別防災部の6部門でそれぞれ活動をし、町の活性化を目指して活動を続けています。

## 活動

住民が安心して住めるよう西部自治会では防犯・防火そして防災に対して力を入れての活動を進めています。まず防犯では、平成25年より3年間で町内11ヶ所に防犯カメラを設置し、犯罪に対しての抑止力に努めています。そして、防災では特別防災部員の中より防災士の資格者2名が誕生し今後の防災において非常に力強い味方を得ました。

毎年1月に大和小学校において「もちつき大会」と「こども消火器訓練」を実施して来ましたが、大和小と若宮小の統合により今年が最後の行事となるので伝統のドンド焼きの再興が決まりました。

最後に、自治会内相互における親睦を図り、住みやすいまちづくりに力を入れて今後も行っていきます。

